

# 堤中納言物語伝本考 (五)

松 村 誠 一

(高知大学文理学部 国語学国文学研究室)

## On the variants of "Tsutsumi-chûnagon monogatari" (5)

Seiichi MATSUMURA

(Seminar of the Japanese Language, Faculty of Literature and Science, Kôchi University)

### 第一群第一類第二類の諸本の共通異文

南葵文庫本・函崎文庫本・狩野文庫本・浜臣旧蔵本・書陵部浜臣本・井上本・上野浜臣本・小山本・多和文庫本・岸本本・群馬本の第一類諸本と、久原文庫本・山田常典本・大野広城本・伴信友本の第二類諸本とは、次のような共通異文を持っている。(図版参照)共通異文は、次の順序で記述する。

番号, 拙著堤中納言物語(日本古典全書)\*による頁数一行数, その本文一共通異文.

- (1) 38-4 もろともに出つかの見つる—もろともについてみつる
- (2) 38-7 むけにけおさるる—むけにおさるゝ
- (3) 39-7 思ひやり少きにやよき折—思ひやりすくなきに心よきおり
- (4) 42-11 聞きていみしうあはれに覚えければ児もかへして—ナシ
- (5) 43-5 滝の方さまに一たにのかたさまに
- (6) 44-14 なきにやとあはれに—なきにやあはれに
- (7) 47-7 さはありとも—さはありてむ
- (8) 47-11 きぬとて人の著るも—きぬとて人のきるもの
- (9) 48-7 は—こそ
- (10) 49-4 我も声をうちあけて—われもこゑをあけて
- (11) 49-9 愛敬つきたるあり—あい行つきたる事あり
- (12) 52-3 来るなりけりこれを—くるなりこれを
- (13) 53-2 かはむしは袖に拾ひ入れて—かはむしはひろひいれて
- (14) 53-8 さうさうし—さうしき
- (15) 53-10 とりもちてのみ—とくもちてのみ
- (16) 56-2 言ふも—いふも\*\*
- (17) 57-1 思しのたまはせずとこそ—おほしの給はすところ
- (18) 57-15 とある—と
- (19) 58-1 し給ふなるなとこそ—し給なるほとそ
- (20) 58-8 目とまりて見給ふ—めとまりてみゆ

\* 松村誠一 堤中納言物語 3版 朝日新聞社 昭和31年2月

\*\* ここは拙著が、第一類第二類諸本共通異文を採用した所である。

- (21) 59-3 語らふに三日月の影一かたらふみか月のかけ  
 (22) 63-1 方わかるるは一かたはるゝは  
 (23) 68-10 をかしければ何事のさ忙しくは思さるるそまろをたに思さむとあらはいみしう一  
 ナシ  
 (24) 69-14 ものなけかしけなる一ものかなしけなる  
 (25) 71-14 へき一に  
 (26) 72-10 こかね一ナシ  
 (27) 72-15 来一ナシ  
 (28) 74-3 けむ一けり  
 (29) 78-4 人々一へし  
 (30) 80-6 今一人の一いまの一人の  
 (31) 81-3 女君一君  
 (32) 84-3 かの一か折  
 (33) 88-7 一所にとそ一一いろいろにそ  
 (34) 90-1 いとをかしく一いとほしく  
 (35) 90-10 たるなめり一たるめり  
 (36) 91-6 なども一ほとも  
 (37) 91-11 さいふとも一さいふも  
 (38) 94-12 いと一いともいと  
 (39) 100-3 女長むしろ何やかや一やりたりける一ナシ  
 (40) 101-1 世の中と一世中は  
 (41) 101-12 身を捨てぬものなれはいるへきものとも一ナシ  
 (42) 103-4 あめのしたの一あめしたの  
 (43) 104-7 よしなし事とも一よしなきこととも

この外、第一類第二類諸本の中の本を除き、他はすべて共有している共通異文がある。これらも、第一類第二類共通異文とみなしてさしつかえないと思われる。次にこれを示す。

- (1) 36-8 うちすきたる一うきすきたる(狩野文庫本一こきすきたる)  
 (2) 38-11 にこそ一にてそ(狩野文庫本一欠文)  
 (3) 38-11 あれ一あり(函崎文庫本一ある)  
 (4) 46-5 とも一と(狩野文庫本一底本=同ジ)  
 (5) 57-15 知らすはいかに一しらすはいかに(山田常典本一底本=同ジ)  
 (6) 63-4 中納言一中納言は(群馬本一底本=同ジ)  
 (7) 77-1 中の君一中将君(井上本一底本=同ジ)  
 (8) 77-11 右大臣殿の少将は一右大臣殿の少将にて(狩野本一底本=同ジ)  
 (9) 79-15 むたり一いたく(狩野文庫本一底本=同ジ)  
 (10) 87-6 にほひを一にほひも(山田常典本一わかれも)  
 (11) 101-1 つくしくたく一すくしかたく(狩野文庫本一すくしかたき)  
 (12) 101-5 浅間の峯とのはさま一あさまのみねとはさま(狩野文庫本一底本=同ジ)  
 (13) 105-2 はれゆく一くれ行(狩野文庫本一がくれゆく)

第一類第二類諸本の間にはこのような共通異文があるが、この両類の間にはどのような系譜的な関係があるかを明かにすることはできない。

### 第一群第三類の諸本

(1) 神宮文庫蔵林崎文庫旧蔵本（以下林崎文庫本と称す）

縦27.2纏、横18.8纏。袋綴一冊。「林崎文庫」「勤思堂」「天明甲辰八月吉旦奉納皇太神宮林崎文庫以期不朽 京都勤思堂村井古巖敬義拜」の印がある。

(2) 清水泰氏蔵藤井乙男博士旧蔵一冊本（以下清水一冊本と称す。）

清水泰氏によれば\*、前述の林崎文庫本の転写本で、次のような奥書がある。

右堤中納言物語者京人村井孤雁林崎文庫奉納書也

天明六年六月使写之 荒木田末偶

天明七年丁未八月九日以宇治菊家兵部末偶本書写畢

稻懸大平（花押）

### 第一群の諸本の共通異文

第一群の諸本は、次のような共通異文を有する。（図版参照）

- (1) 43-2 ものはかなげに一はかなげに
- (2) 42-2 穴かまへ出てて一あなたへいて
- (3) 47-5 さいらへ給へは一さはらへ給へは
- (4) 48-10 人ももはら一人もはら
- (5) 49-8 いふ中に一いふ事に
- (6) 51-12 はくろめ一はくろ
- (7) 55-4 とかむるも一とかむるも\*\*
- (8) 58-11 世の常に一よのつねは
- (9) 64-12 いへと一いへは
- (10) 66-3 心地は一心ち
- (11) 70-15 著一ナシ
- (12) 73-3 はひ入りぬ一はひりぬ
- (13) 77-14 この一ナシ
- (14) 79-6 なよよかなるか一なよよかなるか
- (15) 80-8 あれは一あれと
- (16) 80-10 とは一は
- (17) 87-14 知らぬか一しりぬる
- (18) 88-6 いらへやせまし一いてやせまし
- (19) 94-7 たかひて一たかひ
- (20) 101-10 ましり一ナシ

次に示すものも、第一群諸本共通異文とみなしてよからう。

一本を除いて、他はすべて共有する共通異文

- (1) 42-5 立ちよりたりしかは一たちよりしたりしかは（狩野文庫本一底本＝同ジ）

\* 清水泰 堤中納言物語評釈 文献書院 昭和4年9月

\*\* こは拙著が、第一群諸本共通異文を採用した所である

- (2) 58—8 ものの便りにもせむ—ものたよりも契ん(群馬本—底本=同ジ)  
(3) 71—13 いひたるを一書たるを(狩野文庫本—底本=同ジ)

二本を除いて、他はすべて共有する共通異文

- (1) 74—4 何事—同事(狩野文庫本・群馬本—底本=同ジ)

(附記) 本稿を草するに当り、東京大学附属図書館・国立国会図書館支部静嘉堂文庫・東北大学附属図書館・無窮会図書館・宮内庁書陵部・国立国会図書館支部上野図書館・河島又生氏・松岡茂春氏・国立東京博物館・東京大学文学部国文学研究室・大東急記念文庫・国立国会図書館支部内閣文庫・京都大学附属図書館・吉川尚氏・高木常子氏・神宮文庫から、閲覧或いはマイクロフィルム撮影について多大の便宜を与えられた。あつく謝意を表する次第である。

なお、図版の第一群第一類第二類諸本共通異文(一)の大野広城本の欄、異文2が空白になっているが、これは筆者所持の写真が欠けているためで、原本は上欄の諸本と同文である。

(昭和32年9月16日受理)

南葵文庫本

浜臣旧藏本

小山本

大野広城本

1				き
2				あ
3				あ
4				あ
5				あ
6				あ
7				あ
8				あ
9				あ
10				あ
11				あ



第一群 第一類 第二類 諸本 共通異文 (二)

南葵文庫本

浜臣旧蔵本

小山本

大野広城本

- |    |     |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 22 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 21 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 20 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 19 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 18 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 17 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 16 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 15 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 14 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 13 | かきく | かきく | かきく | かきく |
| 12 | かきく | かきく | かきく | かきく |





南菱文庫本

浜臣旧蔵本

小山本

大野広城本

23	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
24	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
25	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
26	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
27	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
28	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
29	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
30	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
31	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
32	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも
33	いづれも	いづれも	いづれも	いづれも



南葵文庫本

浜臣旧蔵本

小山本

大野広城本

34	いしな	いしな	いしな	いとをしく
35	あつち	あつち	あつち	とをえり
36	あつち	あつち	あつち	おとも
37	あつち	あつち	あつち	さいふも
38	あつち	あつち	あつち	いとむいと
39	あつち	あつち	あつち	うきをそを
40	あつち	あつち	あつち	世中ハ
41	あつち	あつち	あつち	あつち
42	あつち	あつち	あつち	あつち
43	あつち	あつち	あつち	あつち



	南葵文庫本	浜臣旧蔵本	小山本	大野広城本	林崎文庫本
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					



南葵文庫本

浜臣旧蔵本

小山本

大野広城本

林崎文庫本

11	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
12	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
13	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
14	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
15	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
16	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
17	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
18	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
19	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
20	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ

